



日本統計学会 会報 2017.7.31 No. 172

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——西郷 浩 (理事長) / 村上 秀俊 (庶務理事)
森 裕一 (前広報理事) / 伊藤 伸介 (広報理事)
久保田 貴文 (前広報委員) / 西埜 晴久 (前広報委員)
古閑 弘樹 (広報委員) / 水野谷 武志 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. 会長就任のご挨拶…………… 赤平昌文… 1 | 12. 欧文誌 (JJSS) への投稿受付停止と新ジャーナル (JJSD) 創刊のお知らせ …… 青嶋 誠…13 |
| 2. 会長退任のご挨拶…………… 岩崎 学… 2 | 13. 特集記事 |
| 3. 理事長就任のご挨拶…………… 西郷 浩… 3 | シリーズ「統計学の現状と今後」 …… 田中周二…13 |
| 4. 理事長退任の挨拶…………… 中野純司… 4 | シリーズ「統計学の現状と今後」 …… 今井耕介…15 |
| 5. 第22回日本統計学会賞について …… 岩崎 学… 5 | 14. 2017・2018年度代議員選挙結果 |
| 6. 第13回日本統計学会統計活動賞について …… 岩崎 学… 7 | …………… 稲葉由之・田中研太郎… 16 |
| 7. 第13回日本統計学会統計教育賞について …… 岩崎 学… 8 | 15. 2017・2018年度会長選挙開票報告 |
| 8. 第11回日本統計学会研究業績賞について …… 岩崎 学… 8 | …………… 稲葉由之・田中研太郎… 17 |
| 9. 第10回日本統計学会出版賞について …… 岩崎 学…10 | 16. 理事会・委員会報告 (2017年 5月13日開催) … 17 |
| 10. 第31回小川研究奨励賞について …… 岩崎 学…11 | 17. 社員総会報告…………… 18 |
| 11. 2017年度統計関連学会連合大会について | 18. 理事会報告 (2017年 6月10日開催) …… 23 |
| …………… 青木 敏・川野秀一・寺田吉彦・ | 19. 博士論文・修士論文の紹介…………… 24 |
| …………… 姫野哲人・元山 齊…11 | 20. 会員からの情報提供…………… 25 |
| | 21. 学会事務局から…………… 25 |
| | 22. 投稿のお願い…………… 26 |

1. 会長就任のご挨拶

赤平 昌文 (筑波大学)

この度、代議員会での選出を経て、会員による選挙の結果に基づき2017年6月の理事会において日本統計学会会長に選出されました。理事長をはじめ理事、監事、代議員の方々の御協力を得ながら、微力ではありますが学会のために尽力したいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

2011年の東日本大震災、それに伴う原発事故を契機に、社会には大学、研究機関、学協会等を含むアカデミアに対する不満、不信が生まれました。特に、アカデミアが震災以前もその直後も社会に

対して必要な情報を提供してこなかったことがその一因です。それに危機感を持った日本学術会議をはじめとするアカデミアは失われた信頼の回復に懸命でしたが、まだ十分とは言えない状況に見えます。その際、



社会に学問には限界があるということが十分に伝わっていないのではないかとこの懸念を感じます。アカデミアの側が情報発信の際に受け手にサイエ

ンスが万能であるかのような印象を与えかねないような場面もあるように思います。その限界を示すものが前提条件です。数学ほど厳密ではなくとも、常にそのことに留意することは大切ではないでしょうか。特に、統計学のような学際的で応用も広い学問では重要で、それを怠ると情報発信の際に誤解を招きかねません。

日本統計学会は統計関連学会連合に参加し、連合大会も開催されて連携が図られています。その意味では異分野との協働は比較的行われていますが、まだ十分ではないようにも思えます。私は、2007年から2016年にわたってJST「数学と諸分野の協働によるブレークスルーの探索」の領域アドバイザーの一員としてその任に当たりました。本領域では、数学者が社会的ニーズの高い課題の解決を目指して行う研究を対象とするものでした。その中には、力学系の観点から研究している課題もありましたが、実は時系列解析とも深く関わっていると感じ、そのことをコメントしたことがあります。統計学と力学系の数学の研究者が協働すればもっと発展性があるのではないかとも思いました。幸いにもJSTの後継の領域では、そのような協働が実際に行われて画期的な成果が得られているようです。異分野との協働によって意外な成果も期待されるのではないのでしょうか。

日本統計学会では岩崎学前会長の主導で欧文の学会誌を統計関連学会連合の欧文ジャーナルとして発展的に継承させることになりました。ジャーナルは学会として重要な情報発信の場ですので、これが今後、順調に遂行されるように連合の学会とも連携していきたいと思っています。最近は、国の財政難もあって研究費の確保が大変難しくなりこの状況を少しでも改善するために他学会等とも協力して当たりたいと考えております。日本統計学会が国際的にもさらに発展するように努めたいと思っております。会員の皆様の御支援をよろしくお願い申し上げます。

会長略歴

赤平昌文（あかひらまさふみ）理学博士
1969年 早稲田大学理工学部数学科卒業
1971年 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程
修了
1978年 電気通信大学助教授
1987年 筑波大学数学系教授
2007年 筑波大学大学院数理物質科学研究科長
2009年 筑波大学理事・副学長（研究担当）
2013年 筑波大学特命教授・名誉教授
2015年 筑波大学名誉教授
研究分野：統計的推測理論

2. 会長退任のご挨拶

岩崎 学（成蹊大学・横浜市立大学）

2015年6月から2年間、中野純司理事長をはじめとする各理事の皆さん、および学会組織特別委員会、学会活動特別委員会の方々、さらには各委員会で学会活動を支えていただいた多くの会員諸氏のご協力を得て、無事に会長の任期を務めることができました。有難うございます。同時期、日本統計学会もその一員である統計関連学会連合の理事長の役目も仰せつかり、実はかなり多忙な2年間でした。

この2年間、岡山大学と金沢大学での統計関連

学会連合大会、東北大学と政策研究大学院大学で開催された日本統計学会春季集会を無事行うことができました。それぞれ多くの参加者を得て、誠に充実した大会となりましたこと、関係各位に改めて御礼申し上げます。特に金沢での大会には、星野申明実行委員長のご努力により石川県と金沢市からの多額の助成金を得て、海外からの参加者をこれまで以上に招待し得たことは、学会の国際化の観点から大変有意義なことであったと思います。

これまで学会は、主として大学に籍を置く研究者の意見交換の場という性格が強かったと思いますが、近年は、企業の方々を始め、初等中等教育に携わる先生方および国や地方公共団体の職員の皆さんの参加も増えてきています。これは取りも直さず、統計のすそ野が広がりを見せている証拠です。そのため、多くの方々への門戸を開くという目的で、谷崎久志学会組織特別委員長の協力を得て、中野理事長の主導の下で新たに「準会員」という学会種別を設けることとしました。これにより、小中高の先生方や国もしくは地方公務員の方々の学会参加がしやすくなります。

一方で、IT化およびグローバル化・国際化の波が、学会活動にも大きな影響をもたらしつつあります。その一つが欧文ジャーナルです。ここ数年、ほとんどのジャーナルは電子化されて冊子体での発行がされなくなっています。また、雑誌のimpact factorが研究者の業績評価やプロモーションに大きな影響を与えつつあります。そのため、中野理事長と協議の末、欧文誌 Journal of Japan

Statistical Society を、統計関連学会連合による編集に改め Japanese Journal of Statistics and Data Science とし、Springer 社から出版される e-journal として再出発することとしました。数年後の impact factor の取得を目指します。

ここ数年、統計学に対する社会の期待は大きくなりつつあることは疑いありません。2017年4月には滋賀大学に日本発のデータサイエンス学部が誕生しました。また2018年4月には横浜市立大学に首都圏初のデータサイエンス学部が誕生します。さらには、国立6大学で統計教育のカリキュラムの開発・整備がなされます。その他にも、統計学・データサイエンスに重きを置いたコースやプログラムが複数の大学で開始されると聞いています。医療統計の人材育成プログラムも開始されました。

何となく難しい世の中、という気がしないでもありませんが、皆さん、ここが正念場のような気がします。赤平昌文会長を盛り立て、私も、できる範囲ではあります但し努力します。

3. 理事長就任のご挨拶

西郷 浩（早稲田大学）

このたび、日本統計学会理事長を拝命しました。錚々たる歴代理事長に比して非力であることは否めません。しかし、幸いなことに、わが国の統計学界を代表する赤平昌文先生を会長にお迎えすることができました。赤平会長のリーダーシップのもとに、日本統計学会の発展に努める所存です。どうぞよろしくお願いたします。

私が学会の運営のお手伝いを比較的長く経験しています。それを通して、研究者として著名な先生がたが、学会の運営にも真摯に取り組んでおられる姿を目の当たりにして参りました。初めてお手伝いしたのは、1992年から3年間、広報に携わったときでした。著作でしか名前を存じ上げていなかった先生がたが、熱心に学会の運営について議論していることに、感銘を受けました。2005年

から2年間は、大会委員会委員（プログラム委員会委員）として理事会に出席しました。ちょうど連合大会が軌道に乗り始めた頃で、複数の学会が協働で統計の

研究活動を進める意気込みを感じました。そして、学会が法人化された2011年から3年間、理事（大会担当、庶務担当）を務めました。とくに、庶務理事は、法人組織を運営していくことの大切さや難しさを実感する機会となりました。今回は、囂らぐも理事長として学会運営のお手伝いをさせて



いただくこととなります。

以下、今後の学会にとって重要と私が思う項目について述べます。

第1に、統計関連学会連合が新しく発行する欧文ジャーナルを日本統計学会が支援していく必要があります。社員総会（2017年6月10日）で決定されたとおり、日本統計学会の欧文誌は連合の新ジャーナルに発展的に吸収されます。評価の高いジャーナルをわが国から発行することによって、国内外の研究を活発化することが新ジャーナルの目的の一つとされています。高い評価を得るためには、質の高い論文の継続的な掲載が必要です。日本統計学会には、新ジャーナルに参加する学会のひとつとして、多くの会員が論文を投稿することが期待されています。

第2に、データの科学的な作成・分析に対する社会の要望に応じていく必要があります。技術革新のスピードはすさまじく、従来とは性質の異なるデータの作成・分析への需要はこれまでに高く上がっています。それとは裏腹に、プライバシー意識の高まりとともに、社会に不可欠な公的統計の作成がますます困難になっており、その解決へ学会の協力が望まれています。

第3に、わが国の統計教育に学会が協力する必要があります。これまでも、学会は中等教育・高等教育における統計教育に尽力してきました。たとえば、高校数学に「データの分析」が含まれたことや、大学レベルの統計教育に関する統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）の活動は、その例といえます。しかし、諸外国に比べて、わが国の統計教育には改善の余地が少なくないと思えます。教材の開発などの面で学会への期待は大きいといえます。

この他にも、連合大会・春季集会における国際セッションの常設など、重要な項目がたくさんあります。微力ながら実現に向けて努力いたします。

理事長略歴：

西郷 浩（さいごう ひろし） 修士（経済学）

1961年5月 東京生まれ

1987年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了

早稲田大学専任講師、早稲田大学助教授を経て

1999年4月 早稲田大学教授、現在にいたる。

研究分野：統計調査、標本調査論

4. 理事長退任の挨拶

中野 純司（統計数理研究所）

年齢を重ねるとともに時間が経つのが早くなるとはよく言われることですが、この2年間は本当にあつという間でした。2年前に理事長職を突然拝命したときはどうなることかと思いましたが、あたふたしながらも無事に仕事をこなすことができたのは、ひとえに岩崎会長と理事の皆様のおかげとのおおげさな感謝の意を述べさせていただきます。

理事長就任の挨拶で、日本統計学会をより良い議論の場としたいと述べました。それに関して学会活動特別委員会で検討して頂き、大森委員長より提言をいただきました。その提言の方向で国際化や他学会との協力を進めました。金沢大学での

統計関連連合大会で、実行委員会のご尽力もあり、多くの国際セッションを日本計算機統計学会と共同開催することができました。また、統計数理研究所と共同で第1回赤池メモリアルレクチャーを開催しました。赤池メモリアルレクチャーは今後2年ごとに開催されます。また、韓国、台湾の学会との共通セッションもそれぞれの国でいつも以上に開催することができました。これらに関しては塚原国際担当理事にご尽力いただきました。また、他学会との協力活動のひとつとして政策研究大学院大学での春季集会で、データサイエンティスト協会による招待セッションを企画しました。

学会組織特別委員会には会員種別や会費について検討して頂きました。その結果として谷崎委員長より新会員種別の追加と会費の一部改訂の提言を頂きましたので、その方向で改訂を行いました。同時に会費納入にクレジット決済が行えるようにしました。これらの改訂の実務は法律的、事務的に予想以上に複雑で、間野庶務理事の超人的な働きで可能になったものです。

また、学会 Web ページの抜本的な改良（新規システムの作成、英語ページの充実など）も行うことができましたが、これに関しては森広報担当理事の多大なご尽力によるものです。

以上の非定常的な活動の上に、定常的な活動も理事の先生方の本当に献身的な働きのおかげで滞りなく進めることができました。そのためにすべての理事の先生方、また委員の先生方にはかなりの時間を使って頂きました。感謝に堪えないとともに、とても申し訳なく思っております。理事・委員の先生方が、統計学の発展を願い、学会としてそれをサポートしたいという強い熱意をもって

活動して頂いたことには感動を覚えました。

近年、研究者の研究に使える時間は急速に減少しており、研究教育環境は厳しい状況にあると思います。ほぼボランティアベースである学会サポート活動は負担となるので理事・委員をお願いするのはとても躊躇します。わたしにとって幸運なことに、お願いした理事の先生方が快く十分以上に活動して下さったことは、非常にありがたいことでした。研究環境は誰かが改善してくれるのを待つことはできず、自分たちのできる範囲で改善していくしかなく、また、それは可能であると言うことを実感できた2年間でした。

AI が急速に実用化されている昨今ですが、その基礎であるべき「データを扱う科学」である統計学を発展させ、その重要性を認識させることはわれわれ統計学に携わる者の使命です。日本統計学会は赤平新会長・西郷新理事長をはじめとする新執行部により、その活動の中心となると思います。皆様の日本統計学会へのご協力を、今後もよろしく願います。

5. 第22回日本統計学会賞について

前日本統計学会会長 岩崎 学（成蹊大学・横浜市立大学）

2017年度の日本統計学会賞は、以下の3名の方々に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：青嶋 誠 氏

略歴：1986年 東京理科大学理学部応用数学科卒業、1992年 東京理科大学大学院理学研究科数学専攻博士後期課程修了。博士（理学）。1992年 東京理科大学理学部助手、1994年 東京学芸大学教育学部助教授、1999年 筑波大学数学系助教授、2007年 筑波大学数理物質系教授。日本統計学会、日本数学会などの各種委員を歴任。日本統計学会研究奨励小川賞、研究業績賞などを受賞。

授賞理由：青嶋誠氏は、高次元統計解析の分野を牽引し、当該分野の世界的な先端研究者として著名である。その方法論は従来の多変量解析の枠組

みにとどまらず、きわめて独創的かつ先駆的で、理論と応用の両面から多大な貢献をしている。また、国際統計協会の日本代表として国際会議に関わり、国際学術誌の編集委員を務めるなど、日本の統計の海外でのプレゼンスを高めた。さらに、日本統計学会和文誌の編集長を務めるなど、その多方面にわたる業績が顕著である。

青嶋氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] 青嶋 誠 (2002). 二段階標本抽出法による統計的推測. 数学, 54, 365-382.

[2] Aoshima, M. and Yata, K. (2011). Two-stage procedures for high-dimensional data. *Sequential*

Analysis, **30**, 356-399.

- [3] Yata, K. and Aoshima, M. (2012). Effective PCA for high-dimension, low-sample size data with noise reduction via geometric representations. *Journal of Multivariate Analysis*, **105**, 193-215.
- [4] Aoshima, M. and Yata, K. (2014). A distance-based, misclassification rate adjusted classifier for multiclass, high-dimensional data. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, **66**, 983-1010.
- [5] Yata, K. and Aoshima, M. (2016). High-dimensional inference on covariate structures via the extended cross-data-matrix methodology. *Journal of Multivariate Analysis*, **151**, 151-166.

[2] 受賞者氏名：清水 邦夫 氏

略歴：1972年 東京理科大学理学部応用数学科卒業、1976年 東京理科大学大学院理学研究科数学専攻博士後期課程中退。理学博士。1976年 東京理科大学理工学部情報科学科助手、1989年 東京理科大学理工学部情報科学科助教授、1990年 東京理科大学理学部応用数学科助教授、1997年 同教授。1998年 慶應義塾大学理工学部数理科学科教授、2014年 統計数理研究所統計思考院特命教授。慶應義塾大学名誉教授。応用統計学会元会長。

授賞理由：清水邦夫氏は、対数正規分布に関連した確率分布に関する理論的研究が多くの研究論文として発表され、理論的な結果をまとめた書籍は当該分野のスタンダードとして高く評価されている。また、方向データに関する理論および応用の研究も特筆に値するものである。さらに、数多くの海外研究者との共同論文の発表および国際学術誌の編集委員を務めるなど、国際的な活動にも優れている。若手研究者の育成にも尽力し、学会での要職を歴任するなど統計界への功績は顕著である。

清水氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Shimizu, K. and Iwase, K. (1981). Uniformly minimum variance unbiased estimation in lognormal and related distributions. *Communications in Statistics - Theory and Methods*, **10**, 1127-1147.
- [2] Crow, E.L. and Shimizu, K. (eds.) (1988). *Lognormal Distributions: Theory and Applications*. New York: Dekker.
- [3] Shimizu, K. (1993) A bivariate mixed lognormal distribution with an analysis of rainfall data. *Journal of Applied Meteorology*, **32**, 161-171.
- [4] Shimizu, K. and Iida, K. (2002). Pearson type VII distributions on spheres. *Communications in Statistics - Theory and Methods*, **31**, 513-526.
- [5] Shimizu, K. and Tanaka, M. (2003). Expected number of level-crossings for a strictly stationary ellipsoidal process. *Statistics and Probability Letters*, **64**, 395-310.

[3] 受賞者氏名：筑瀬 靖子 氏

略歴：津田塾大学大学院修士課程修了、1974年 イェール大学大学院博士課程修了。1974年 Ph.D. (イェール大学)。1986年 理学博士 (九州大学)。1975年 放射線影響研究所研究員、1976年 香川大学経済学部助教授、教授を歴任。1998年 香川大学工学部教授。オーストラリア連合王国科学産業研究機構客員研究員、ピッツバーグ大学客員研究員、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、ヨーク大学、トロント大学、マッギル大学、セント・アンドリュース大学客員教授を歴任。2007年 香川大学名誉教授。

授賞理由：筑瀬靖子氏は、多変量分布論に関して多くの優れた研究業績を上げ、日本が世界に誇る多変量分布論の研究者のひとりとして高く評価されている。特に、対称行列の固有値の分布の理論に関する偏微分方程式による取り扱いや、Stiefel 多様体あるいは Grassmann 多様体上の確率分布の展開は極めて先駆的である。また、米英をはじめ

とする各国の諸大学や研究期間での研究に従事し、多くの論文を国際的学術誌に発表するなど、その研究活動は国際的にも顕著である。

筑瀬氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Muirhead, R.J. and Chikuse, Y. (1975). Asymptotic expansions for the joint and marginal distributions of latent roots of the covariance matrix. *Annals of Statistics*, **3**, 1011-1017.
- [2] Chikuse, Y. (1976). Partial differential equations for hypergeometric functions of complex arguments matrices and their applications.

Annals of the Institute of Statistical Mathematics, **28**, 187-199.

- [3] Chikuse, Y. (1976). Asymptotic distributions of the latent roots of the covariance matrix with multiple population roots. *Journal of Multivariate Analysis*, **6**, 237-249.
- [4] Chikuse, Y. (1981). Distributions of some matrix variates and latent roots in multivariate Behrens-Fisher discriminant analysis. *Annals of Statistics*, **9**, 401-407.
- [5] Chikuse, Y. (2003). *Statistics on Special Manifolds*. Lecture Notes in Statistics, **174**, New York: Springer-Verlag.

6. 第13回日本統計学会統計活動賞について

前日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学・横浜市立大学)

2017年度の日本統計学会統計活動賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名：田村 義保 氏

略歴：1975年 東京工業大学理学部物理学科卒業、1980年 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。理学博士。1980年 日本学術振興会奨励研究員、1982年 統計数理研究所第5研究部研究員、1986年 統計数理研究所データ解析研究センター助教授、1997年 統計数理研究所統計計算開発センター教授。2012年 統計数理研究所モデリング研究系教授。

授賞理由：田村義保氏は、シミュレーションのための乱数発生機の開発とその利用の啓発、統計分析の実際を分かりやすく説明するためのコンテンツの作成、データ分析を体験するためのツールの開発、初等中等教育のための研修事業など、統計学の普及・促進のための基盤整備に長年にわたる功績がある。また、日本統計学会をはじめとする統

計関連の諸学会の理事・評議員を多期間にわたって務めるなど、統計学の普及活動に関する多大な貢献は顕著である。

田村氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会統計活動賞にふさわしいものである。

活動実績および研究業績：

- (1) シミュレーションのための乱数発生機の開発とその利用の啓発
- (2) 統計分析の実際を分かりやすく説明するためのコンテンツの作成
- (3) データ分析を体験するためのツール開発
- (4) 初等中等教育のための研修事業の推進
- (5) 統計諸学会を通じた統計学の普及活動

- [1] 田村義保・小野寺徹・中畑昌也・清水隆邦 (2006). 日本における物理乱数発生装置の現状. *日本統計学会誌*, **35**, 201-212.
他多数.

7. 第13回日本統計学会統計教育賞について

前日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学・横浜市立大学)

2017年度の日本統計学会統計教育賞は、以下の方々に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：堀場 規朗 氏

略歴：1998年 香川大学教育学部卒業，1998年 高松市立仏生山小学校教諭，2001年 土庄町立豊島小学校教諭，2004年 高松市立木太南小学校教諭，2008年 香川大学教育学部附属高松小学校教諭。

授賞理由：堀場規朗氏は、長年小学校算数科において子供の意欲を高める授業の展開について研究し、近年は次期学習指導要領改訂にもつながる資料・データの見方・考え方についての研究発表を行うことにより、他の研究者・教育者にとって模範となっている。特に、日本統計学会統計教育分科会主催の統計教育の方法論ワークショップにおいても優れた実践報告を行い、その教育に対する貢献は顕著である。

堀場氏のこれらの活動は、これまでに加え、統計教育のこれからの発展に大きく貢献することが期待され、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] 堀場規朗：香川県算数教育研究会定例研修会 研究発表「合同な図形」
- [2] 堀場規朗：中国四国教育学会第62回大会「算数の本質的なおもしろさを味わうことにより学習意欲を高める」

[3] 堀場規朗：中国・四国算数・数学教育研究大会（高松）「統計グラフで学校をよりよく変えよう！」

[4] 堀場規朗：第12回統計教育の方法論ワークショップ「身の回りの環境に働きかける統計グラフ～価値を産み出す創造的な活動～小学校3学年学級創造活動」

[5] 堀場規朗：第13回統計教育の方法論ワークショップ「統計グラフでよりよい学校生活～身近な集団の変化を分析～」

[2] 受賞者氏名：埼玉県統計教育研究協議会

授賞理由：昭和30年に設立された埼玉県統計教育研究協議会は、埼玉県統計課・統計協会・教育委員会と連携し、統計の重要性を県内の学校の教員や児童・生徒に普及するため活動している。主な活動には、統計グラフコンクールの開催、教職員向けの統計指導者研修会、統計教育の授業研究会などを毎年開催している。また、埼玉県内にとどまらず、全国統計教育研究協議会などでも主要な役割を果たしてきたことは、統計教育の普及啓発活動として高く評価される。

埼玉県統計教育研究協議会の活動は、統計教育のこれまでの実績に加え、これからの発展に大きく貢献することが期待され、統計教育賞にふさわしいものである。

8. 第11回日本統計学会研究業績賞について

前日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学・横浜市立大学)

2017年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の3名の方々に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：加藤 賢悟 氏

略歴：2005年 東京大学経済学部卒業，2009年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。2009年 広島大学大学院理学研究科数

学専攻助教, 2013年 東京大学大学院経済学研究科講師, 2014年 同准教授.

授賞理由: 加藤賢悟氏は, 数理統計学の幅広い分野において多くの顕著な業績をあげ, その研究成果は, *Annals of Statistics* や *Biometrika* などの主要な学術雑誌に多く発表されている. 研究テーマは, 線形分位点回帰, ノンパラメトリック操作変数モデル, 高次元確率変数ベクトルに関する確率分布, 経験過程における近似法, ノンパラメトリック密度推定, スパースなメディアン回帰モデルなど多岐にわたり, いずれも優れた数理統計上の業績を上げられている.

加藤氏のこのような統計学の広範な研究分野に対する顕著な貢献は, 日本統計学会研究業績賞にふさわしいものである.

主要業績:

- [1] Kato, K. (2012). Estimation in functional linear quantile regression. *Annals of Statistics*, **40**, 3108-3136.
- [2] Kato, K. (2013). Quasi-Bayesian analysis of nonparametric instrumental variables models. *Annals of Statistics*, **41**, 2359-2390.
- [3] Chernozhukov, V., Chetverikov, D. and Kato, K. (2013). Gaussian approximations and multiplier bootstrap for maxima of sums of high-dimensional random vectors. *Annals of Statistics*, **41**, 2786-2819.
- [4] Belloni, A., Chernozhukov, V. and Kato, K. (2015). Uniform post selection inference for LAD regression and other Z-estimation problems. *Biometrika*, **102**, 77-94.
- [5] Chernozhukov, V., Chetverikov, D. and Kato, K. (2014). Anti-concentration and honest, adaptive confidence bands. *Annals of Statistics*, **42**, 1787-1818.

[2] 受賞者氏名: 鈴木 大慈 氏

略歴: 2004年 東京大学工学部計数工学科卒業, 2009年 東京大学大学院情報理工学研究科博士課程修了. 博士 (工学). 2009年 東京大学大学院情

報理工学研究科助教, 2013年 東京工業大学大学院情報理工学研究科准教授, 2017年 東京大学大学院情報理工学系研究科准教授.

授賞理由: 鈴木大慈氏は, 複雑な構造のある高次元データの解析手法の推定理論を構築した. 特に, スパースカーネル加法モデルおよび低ランクテンソル推定の理論の構築は国際的に高く評価され, 研究成果は *Annals of Statistics* などの主要学術誌や機械学習のトップ会議の会議録に収録されている. 統計理論を機械学習のような関連分野に浸透させ, そのすそ野を広げた貢献はきわめて顕著である.

鈴木氏のこのような統計学および情報学の広範な研究分野に対する顕著な貢献は, 日本統計学会研究業績賞にふさわしいものである.

主要業績:

- [1] Suzuki, T. (2011). Unifying framework for fast learning rate of non-sparse multiple kernel learning. *Advances in Neural Information Processing Systems*, **24** (NIPS2011), 1575-1583.
- [2] Suzuki, T. and Sugiyama, M. (2013). Fast learning rate of multiple kernel learning: trade-off between sparsity and smoothness. *Annals of Statistics*, **41**, 1381-1405.
- [3] Suzuki, T. (2013). Improvement of multiple kernel learning using adaptively weighted regularization. *JSIAM Letters*, **5**, 49-52.
- [4] Suzuki, T. (2015). Convergence rate of Bayesian tensor estimator and its minimax optimality. *The 32nd International Conference on Machine Learning (ICML2015), JMLR Workshop and Conference Proceedings*, **37**, 1273-1282.
- [5] 鈴木大慈 (2015). 確率的最適化 (機械学習プロフェッショナルシリーズ). 講談社.

[3] 受賞者氏名: 星野 崇宏 氏

略歴: 1999年 東京大学教育学部卒業, 2004年 東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了. 博士 (学術). 2010年 名古屋大学博士 (経済学). 2004

年 統計数理研究所助手, 2005年 東京大学教養学部専任講師, 2008年 名古屋大学大学院経済学研究科准教授, 2014年 東京大学大学院教育学研究科准教授, 2015年 慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科教授.

授賞理由: 星野崇宏氏は, 統計的因果推論およびその関連分野に関する理論および応用に関する優れた業績を上げている. 研究成果を JASA などのトップジャーナルに発表するなどして日本の統計界のプレゼンスを示すと共に, マーケティングをはじめとする幅広い分野における応用研究を実施している. また, 政府関係の統計調査に寄与し, さらには日本学術振興会賞の受賞などその活動は幅広い分野で認められ, 研究業績はきわめて顕著である.

星野氏のこのような統計学やマーケティングなどの広範な研究分野に対する顕著な貢献は, 日本統計学会研究業績賞にふさわしいものである.

主要業績:

[1] 高井啓二・星野崇宏・野間久史 (2016). 欠測データの統計科学 - 医学と社会科学への応

用. 岩波書店.

- [2] 竹内真登・星野崇宏 (2015). 解釈レベルの操作を伴うコンジョイント測定法の開発: マーケティングリサーチに生じるバイアスの排除に関する実証分析. *マーケティング・サイエンス*, **23**, 15-34.
- [3] 猪狩良介・星野崇宏 (2014). 階層ベイズ動的サンプル・セレクションモデルによる Web サイトへの誘導とサイト閲覧行動の同時分析. *日本統計学会誌*, **43**, 185-214.
- [4] Hoshino, T. (2013). Semiparametric Bayesian estimation for marginal parametric potential outcome modeling: application to causal inference. *Journal of the American Statistical Association*, **108**, 1189-1204.
- [5] 星野崇宏 (2013). 継続時間と離散選択の同時分析のための変量効果モデルとその選択バイアス補正: Web ログデータからの潜在顧客への広告販促戦略立案. *日本統計学会誌*, **43**, 41-58.

9. 第10回日本統計学会出版賞について

前日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学・横浜市立大学)

2017年度の日本統計学会出版賞は, 以下の方に授与することが決まりました.

受賞出版物: 統計学が最強の学問である. 同実践編, 同ビジネス編. ダイヤモンド社.

受賞者氏名: 西内 啓 氏

略歴: 2005年 東京大学医学部健康科学看護学科卒業, 2008年 東京大学大学院医学系研究科生物統計学分野修士課程修了. 2008年 東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション分野助教. 2010年以降, 著作や講演会を通じた統計学の啓発活動に従事. 2014年 株式会社データビークル取締役.

授賞理由: 西内啓氏の, 統計学を「最強の学問」とした著作は, 統計学に関する一般書としては異例の売り上げ部数を記録し, それにより統計学の普及・啓発に寄与した貢献は顕著である. 同書に続く統計学に関する一般書の刊行の先駆けとなった点や, 統計に関するセミナーの開催のきっかけとなった点など, 一般社会に与えた影響は高く評価される.

受賞対象となった書物は, 日本における統計学の普及に果たした役割はきわめて大きく, 日本統計学会出版賞としてとして顕彰するにふさわしいものである.

10. 第31回小川研究奨励賞について

前日本統計学会会長 岩崎 学 (成蹊大学・横浜市立大学)

2017年度の小川研究奨励賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名：田畑 耕治 氏

受賞論文：Tahata, K., Naganawa, M. and Tomizawa, S. (2016) . Extended linear asymmetry model and separation of symmetry for square contingency tables. *Journal of the Japan Statistical Society*, **46**, 189-202.

受賞論文の評価：田畑耕治氏は、分割表解析の分野、特に正方分割表の対称性・非対称性のモデリングに関する論文を多数発表されており、*Journal of Japan Statistical Society*にも既に3本の論文を発表されている。受賞論文も正方分割表に関するものであり、非対称性の新しいモデルとして、対

称セルの対数オッズがある種の多項式で表されるモデルを提案し、その数理的性質を明らかにしている。受賞論文の主結果は、提案モデルが対称性を持つための必要十分条件を global symmetry (GS) と moment equality (ME) という概念 (モデル) を用いて表現するというものである。さらに、分割表の対称性の尤度比検定統計量が、提案モデルを検定する部分と上記のGSとMEを検定する部分の和として (漸近的に) 表現できることも示している。正方分割表は自然科学や社会科学に広く応用されており、特に対称性/非対称性はその基礎をなす重要な概念である。受賞論文はこの概念の深化に貢献するものであり、日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである。

11. 2017年度統計関連学会連合大会について

大会委員会 青木 敏, 川野 秀一, 寺田 吉彦, 姫野 哲人, 元山 斉

2017年度統計関連学会連合大会の進捗状況を、6月1日付で発表されました第三報 (三訂版) からの抜粋に幾つか新しい情報を含めて紹介いたします。詳しい情報や関連する情報は、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2017/>

に随時掲載されますので併せてご覧ください。

1. 大会日程, 開催場所, 事前参加申込

開催日程	9月3日(日): チュートリアル セッションと市民講演会
・	9月4日(月)~6日(水): 本大会
場 所	(いずれも南山大学 名古屋キャンパス S棟)

主 催	応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会
共 催	南山大学
協 賛	日本品質管理学会
懇親会	9月5日(火) 18:30~ (予定) 南山大学 名古屋キャンパス内 新食堂棟「リアン」
事前参加 申込	7月14日(金) 13:00~ 8月18日(金) 17:00

既に講演申込と報告集原稿提出期間は終了しています。大会プログラムは、現在、プログラム委員会により作成中です。確定後のプログラムは、上記ウェブページに掲載されます。

2. チュートリアルセッションのご案内

遺伝統計学 (statistical genetics) は、遺伝情報と形質情報の関わりを統計学の観点から研究する学問分野であり、一次的に処理されたゲノム情報を適切に解釈し、社会還元するためのデータ解析学問として近年注目されています。大規模ヒト疾患ゲノム解析により同定された数多くの疾患感受性遺伝子の情報を、遺伝統計解析手法を用いて多彩な生物学・医学データベースと分野横断的に統合することにより、新たな疾患病態の解明や、疾患バイオマーカーの同定、新規ゲノム創薬、等に貢献できると期待されています。本チュートリアルセッションでは、遺伝統計学の基礎的な理論、ゲノムデータ解析の入門的な内容について解説する予定です。参加費については、「4. 参加申し込みと大会参加費」をご覧ください。

日時：2017年9月3日（日）13：00～16：00

（休憩時間を含む）

場所：南山大学 名古屋キャンパス S21

（S棟21号室）

テーマ：遺伝統計学入門

講演者：岡田 随象（大阪大学）

3. 市民講演会のご案内

昨年12月には文部科学省による「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の拠点校選定がなされ、本年4月には滋賀大学にデータサイエンス学部が開設されるなど、我が国でのデータサイエンス教育には大きな動きがありました。そこで今回の市民講演会では、著書「統計学が最強の学問である」でおなじみの西内啓氏をお招きし、「社会で役立つ統計学の力」と題してご講演いただくことにしました。なお、参加費は無料ですので奮ってご参加いただければと思います。

日時：2017年9月3日（日）16：30～18：00

場所：南山大学 名古屋キャンパス S21

（S棟21号室）

題名：社会で役立つ統計学の力

講演者：西内 啓（株式会社データビークル）

4. 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、ウェブページからの事前申込にご協力ください。受付期間は、「1. 大会日程、開催場所、事前参加申込」を参照してください。事前申込の場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費（報告集代を含む）

	事前申込	当日受付
会員（主催6学会の会員）	6,000円	9,000円
協賛学会会員	7,000円	10,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	5,000円
学生以外の非会員	12,000円	18,000円

チュートリアルセッション参加日（資料代を含む）

	事前申込	当日受付
会員（主催6学会の会員）	3,000円	4,000円
協賛学会会員	3,000円	4,000円
学生（会員・非会員を問わず）	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

懇親会参加費

	事前申込	当日受付
一般（会員・非会員を問わず）	6,000円	9,000円
協賛学会会員	7,000円	10,000円

【注意】

- (1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です。
- (2) これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認められません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料は後日送付いたします。主催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。
- (3) 市民講演会は無料です。
- (4) 懇親会は、収容人数に余裕がある場合に限り、オンサイト受付を行う予定です。オンサイト受付のポリシーに関しましては、第四報（昨年度

は8月公開)でご案内致します。

5. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。各自で早めに宿泊の予約をお済ませください。大会会場の南山大学名古屋キャンパスへは、地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩約8分、または、地下鉄鶴舞線「いりなか」駅1番出口より徒歩約15分です。大会会場へのアクセスについてはウェブページ

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html>

をご覧ください。

【託児施設のご利用】

本大会では、実行委員会指定の託児所をご利用頂き、予算内にてその費用を補助させて頂く運びとなりました。宿泊の予約にあたっては、以下の

指定託児所の所在地をご確認されることをお勧めします。なお、託児所の予約についても各自でおこない、大会終了後1週間以内に託児費用申請書と領収書を、実行委員会(南山大学理工学部 白石高章宛)に郵送してください。尚、領収書はコピーをとっておいてください。※託児費用申請書は大会ウェブサイト内「宿泊・観光」ページでダウンロード可能です。

<http://www.jfssa.jp/taikai/2017/pdf/support4nursery.pdf>

名古屋駅近辺

「はないと」<http://hanaito.co.jp/>

「キッズタウン」<http://www.kidstown.jp/>

栄近辺

「うさぎランド」<http://usagiland.jp/>

「マミーメイト」<http://www.mammy-mate.com/>

12. 欧文誌 (JJSS) への投稿受付停止と新ジャーナル (JJSD) 創刊のお知らせ

日本統計学会欧文誌 (JJSS) 編集長・統計関連学会連合新ジャーナル (JJSD) 編集長
青嶋 誠 (筑波大学)

日本統計学会の欧文誌 (JJSS) は、7月末をもって投稿受付を停止します。欧文誌は、統計関連学会連合による新ジャーナル「Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD)」に発展的に吸収されます。それに伴い、欧文誌の発行形態が変わります。

新ジャーナルの創刊 (2018年6月) に向け、本年7月末をもって、現欧文誌は投稿受付を停止します。新ジャーナルへの投稿受付は、8月から開始の予定です。投稿先 (電子投稿 URL) や詳細については、追って学会サイトや会報等でお知らせします。

13. 特集記事

シリーズ「統計学の現状と今後」

アクチュアリーと統計学

田中 周二 (日本大学)

統計学会の一部の方はご存知かも知れませんが、保険会社にはアクチュアリーという確率論や統計学を使う仕事があります。ハレー彗星で有名なエ

ドモンド・ハレーが発明した死亡表を生命保険に応用したのが保険数理でしたが、英国の数学者であったジェームズ・ドドソンが年齢を理由に (45

歳！)、保険組合の加入を拒否されたのがきっかけで1762年にエクイタブル社を設立したエピソードは有名です。それまでは年齢にかかわらず一律の掛け金を払い込む仕組みであった生命保険に合理的な基礎を与えたのが保険数理であったとされています。それ以来、保険数理を扱うアクチュアリーは保険料や責任準備金という保険特有の技術的基礎を担う役割があると認識されたことから保険経営には不可欠のものとして定着してきただけでなく、保険業の専門資格として定着してきたものと考えられています。しかし扱われる保険種類が多様化するなど変化はあったものの、18世紀から20世紀に至るまで保険数理の教科書はほとんど大きく変更されることなく、学問的には停滞してきました。

私が某保険会社に入社したころはまだ高性能のパソコンも表計算ソフトもない時代でしたのでイタリアのオリベッティ社や日立のハイタックミニなどのミニコンを駆使して、保険料計算や商品開発を行っていたのだかな時代でした。アクチュアリーの仕事には新商品の開発の他に、もっと経営上は重要とされる決算業務があり、特に責任準備金と呼ばれるすべての契約者について責任準備金レートに保険金額をかけてメインフレームのコンピュータで集計するという単純計算がありました。しかし、計算自体が大変な時代でした。戦前の写真を見る機会があったのですが、そろばんの達人が人海戦術で一斉に保険料表や責任準備金レートを作成したり、決算業務を行う姿が印象的だったことを覚えています。その後、手回し式のタイガー計算機なども利用されたようです。銀行と違って(超)長期の契約を維持管理するためのインフラは当時としては他業態にない特殊な大量の計算業務を生んだと言えるでしょう。

さて、このような牧歌的な時代はバブル崩壊後の1990年以降、銀行不良債権問題に発する日本の金融危機を経て終焉を迎え、超低金利(最近ではマイナス金利!)が長く続いたことから長期の利率保証をする伝統的な終身保険や養老保険は逆ザヤを生む「お荷物保険」となり主力商品の座から滑り落ちました。現在は第三分野と呼ばれる医療

保険などが主力商品となっています。終身保険や養老保険は死亡保険と呼ばれ、死亡率を使うので標準的な保険数理が扱う商品であり、保険料や責任準備金の計算は、業界で作成した生保標準生命表に基づくことが一般的で会社独自の経験表を作成することは稀でした。ところが、第三分野商品は業界標準というものはないため、それぞれ各社工夫して患者調査などの公的統計や自社経験を利用する必要が生まれてきました。意図しなかったとはいえ商品開発競争があるため、データ分析と統計の役割が重要になってきたことは統計の活用という意味では健全な方向であると思います。多くの会社では、医療保険関係のデータ収集に取り組むようになっており、これを商品開発やリスク管理に利用しようという機運が生まれていると想像します。

損害保険でも、大きな変化が生じつつあります。損害保険では自動車保険が家計分野では最重要保険種目ですが、いわゆる等級別自動車保険に対抗してリスク細分型保険が地歩を固めつつあります。等級別制度では事故歴などにより保険料が上下する仕組みですが、リスク細分保険では年齢、排気量、免許の色などの要因によりドライバーの事故発生率を推定し、保険料を統計データに基づき決定します。多くの場合、一般化線形モデル(GLM)などが用いられるようです。

もっと直近の動きとして、米国などではテレマティクス自動車保険がシェアを大きく伸ばしています。これは、例えば自動車に機器を装着してドライバーの運転行動や癖を記録して保険料に反映させるというもので優良ドライバーほど安い保険料になるので「良い運転」を心がける動機づけになります。ドライバーの運転履歴データはいわゆるビッグデータになりますが、そのためのデータ解析手法が発達してきています。同じようなことは生命保険にもあり、スマートフォンのアプリやスポーツジムの記録などを利用して健康状態のデータを収集し、保険料やサービスに反映させようという試みが始まっています。こうした科学技術が保険に与える意義は極めて革新的で、従来、

契約者と保険会社とは情報の非対称性があり、特に保険加入後のモラルハザードの問題を回避することの重要性はよく理解されていたのですが、その問題に、一つの解決策を与えるものです。アクチュアリー教育体系の中にビッグデータや機械学習を組み込もうという動きは欧米のアクチュアリー会ではすでに始まっています。

保険数理やアクチュアリー統計学を革新する、もう一つの大きな誘因はソルベンシー規制の見直しです。日本の金融庁はすでに中期的には「経済価値ベースのソルベンシー規制」を導入する意思表示をしており、そこでは現在の責任準備金の概念が大きく変わります。欧州ではすでに導入されている「市場整合的」な責任準備金が財務会計に導入されることとなります。過去250年間変わらなかった保険数理がようやく大きく変化し、いくつかの教科書が経済価値ベースに対応する記述になってきています。そこでは、金利の期間構造モ

デルやコーポレートファイナンスなどの数理ファイナンスに基礎づけられた現代的な保険数理に衣替えすることになります。もちろん死亡率などを含めそれぞれ自社が特有 (entity-specific) に持つ計算基礎率の推定が必要なため、統計の整備と詳細な分析がアクチュアリーの業務分野になるでしょう。

日本は確実に超高齢化社会を迎えることになるため、民間の保険会社はそれに対応する変化をしなければならないのですが、残念ながらイノベーションの力は不十分といわざるを得ません。特に欧米の保険会社は年金保険を主力商品として積極的に販売していますが、日本の保険市場では超低金利下という環境もあって消費者にとって魅力的な年金商品の開発・普及に遅れをとっているように見えます。保険会社も研究開発力で勝負する時代が早く訪れることに期待したいと思います。

シリーズ「統計学の現状と今後」

計量社会科学

今井 耕介 (プリンストン大学)

私がアメリカのプリンストン大学で、社会科学における応用統計学を教え始めてから、10年以上になりました。去年から、東京大学とプリンストン大学との間に戦略的パートナーシップが結ばれたのを機に、東京大学法学部政治学科で夏に計量社会科学の集中講義をしています。これは、プリンストンで私が普段教えている大学院レベルの授業を、そのまま東大で教えるという試みで、講義を含め授業は全て英語で行われ、宿題も毎週課され、ティーチングアシスタントによるセッションも毎週1回開かれるという、本格的なものです。プリンストンで12週間をかけて教えている内容を6週間という短い時間で詰め込むのですから、学生も大変です。去年は韓国や中国からの留学生も含めて、10人ほどが受講しました。

私がこのような東大との兼任を引き受けた背景

には、日本を含めたアジア各国において、計量社会科学の分野がアメリカに比べると比較的未発展であるという実情があります。この10年間、私の専門である政治学をはじめとした社会科学の分野では、データ革命ともいべき大きな変化が起きました。以前は、政府によって集計されたデータや、数少ない選挙前後に行われる世論調査が、計量分析の主な対象でした。しかし、今は他にも様々なデータを使い社会事象を分析することが、当たり前になっています。

現代の社会科学者は、政策評価や政策提言をするために、自ら NGO や政府機関と組んで世論調査やフィールド実験を行っています。また、立法過程や裁判所の決定過程の研究においても、政治家や裁判官による投票行動の分析だけでなく、法律や判決文書やスピーチの機械学習を使った分析

までもがなされるようになりました。他にも、地図や衛星写真等に基づいた空間時系列データを使った内戦の研究やインターネット上のブログやツイッターの分析も盛んになり、様々な統計・データを分析できる技術と知識が必要とされるようになったのです。

このような状況の中で、データ分析の技術と知識を持ち合わせた次世代の社会科学者の養成が急務になっていると私は考えます。それは学問の世界だけに限られたものではありません。これからの時代は、企業だけでなく、政府やNGOそして国際機関にとっても、データを駆使して社会にとって最適な政策を立案・評価することが必要とされることでしょう。統計を使って社会問題を分析することのできる、計量社会科学者の役割はますます重要になっているのです。

残念ながら、日本の社会科学研究と教育はこの世界的な流れになかなか対応できていないのが、現状のようです。文系と理系の区別がはっきりしている日本の大学では、社会科学専攻の学生が確率や統計を重点的に学ぶことも少なく、また、統計分析がどのように社会問題に応用されるのかを

理系学生が教わる機会もあまりないのかもしれませんが。去年、慶應大学で行われた「文系学部が創る価値」と題するシンポジウムでは、この問題が活発に議論されました（シンポジウムの様子はYouTubeのビデオで閲覧ができます <https://www.youtube.com/watch?v=5QPwvUX-V4I>）。

私は、今年の夏もまた東大で集中講義を受け持ちます。今回は海外からの学生も含めて、20人以上が受講をする予定と聞いており、去年のように、優秀で好奇心に満ちた次世代を担うアジアの学生に会うことができるのを楽しみにしています。3月にはプリンストン大学出版会から Quantitative Social Science という、学部学生・大学院生向けの計量社会科学の入門書を出版しました

(<http://press.princeton.edu/titles/11025.html>)。この本は、統計・データ分析がいかに社会科学問題を考える上で欠かせないものかということ、実際の研究例を学生が自分で分析することによって「体感」するものです。日本語版は岩波書店から出版される予定であり、一人でも多くの学生が計量社会科学に興味を持つきっかけになればと願っています。

14. 2017・2018年度代議員選挙結果

2017・2018年度選挙管理委員 稲葉 由之（明星大学）、田中 研太郎（成蹊大学）

2016年11月18日（金）、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名（稲葉由之、田中研太郎）により、2017・2018年度代議員選挙の開票が行われました。その結果、定款第5条2により、次の35名が選出されました。

青嶋誠、足立浩平、伊藤聡、岩崎学、内田雅之、大森裕浩、大屋幸輔、金藤浩司、狩野裕、鎌倉稔成、川崎茂、川崎能典、国友直人、栗木哲、栗原

考次、西郷浩、清水誠、瀬尾隆、高部勲、竹内光悦、竹村彰通、谷崎久志、田村義保、椿広計、中野純司、西井龍映、西山慶彦、樋口知之、福井武弘、前園宜彦、南美穂子、山下智志、美添泰人、若木宏文、渡辺美智子（以上35名、五十音順）

なお、有権者1406名（正会員1390名及び名誉会員16名）中、投票者数164名、投票用紙延べ記名者数769、うち有効762、同無効7でした。

15. 2017・2018年度会長選挙開票報告

2017・2018年度選挙管理委員 稲葉 由之（明星大学）、田中 研太郎（成蹊大学）

本学会会長選挙規程第4条による2017・2018年度会長候補者に対する選挙が行われ、2017年4月27日（木）、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名（稲葉由之、田中研太郎）によ

り開票した結果、赤平昌文氏が被選会長として当選しました。有権者数1,380名中、投票数390、うち有効票数385で、内訳は、賛375、否10、無効票数5でした。

16. 理事会・委員会報告（2017年5月13日開催）

理事会

日時：2017年5月13日（土）10：00～12：00

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階応用数学科ゼミ室

理事の総数13名 出席理事の数11名

監事の総数3名 出席監事の数2名

出席者

理事：岩崎学会長、中野純司理事長、間野修平（庶務）、村上秀俊（庶務）、山下智志（会計）、倉田博史（会誌編集欧文）、笹田薫（会誌編集和文）、青木敏（大会・企画・行事）、森裕一（広報）、中谷朋昭（国際）、瀬尾隆（渉外）（以上11名、カッコ内は役割分担）

監事：鎌倉稔成、田中勝人

<第1議案> 2016年度事業報告について

中野理事長より、資料に基づき、2016年度事業について報告があり、審議の結果、一部修正の上承認し、社員総会にて報告することとした。

<第2議案> 2016年度決算報告について

中野理事長より、資料に基づき、2016年度決算について報告があり、山下会計理事によって補足説明がなされ、審議の結果これを承認し、社員総会にて報告することとした。

<第3議案> 監査報告について

鎌倉監事、田中監事より、資料に基づき、2016年度事業報告および決算の監査について報告がなされ、審議の結果これを承認し、社員総会にて報告することとした。

<第4議案> 定款の変更

中野理事長より、資料に基づき、定款の変更について提案があり、間野庶務理事によって補足説明がなされ、審議の結果これを承認し、社員総会にて承認を受けることとした。

<第5議案> 定款細則の変更

中野理事長より、資料に基づき、定款細則の変更について提案があり、間野庶務理事によって補足説明がなされ、審議の結果これを承認し、社員総会にて承認を受けることとした。

<第6議案> 役員選任規程の変更

中野理事長より、資料に基づき、役員選任規程の変更について提案があり、間野庶務理事によって補足説明がなされ、審議の結果これを承認し、社員総会にて承認を受けることとした。

<第7議案> 研究分科会規程の変更

中野理事長より、資料に基づき、研究分科会規程の変更について提案があり、間野庶務理事によって補足説明がなされ、審議の結果これを承認し、社員総会にて承認を受けることとした。

<第8議案> 会員の入退会

中野理事長より、回覧資料に基づき入退会者が紹介され、承認された。

<第9議案> 社員総会招集の件

岩崎会長より、社員総会を以下の通り招集する提案があり承認した。

1. 日時 2017年6月10日（土曜日）午後1時30分から
2. 場所 統計数理研究所 会議室1（D222）
3. 会議の目的事項

- (1) 定款の変更について
- (2) 社員総会における通常の審議

最後に、社員総会（2017年6月10日）の議案と配布資料を確認した。

委員会

日時：2017年5月13日（土）12：00～12：40

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階応用

数学科ゼミ室

出席：理事12名、監事2名、計14名

岩崎学会長、中野純司理事長、間野修平、村上秀俊、山下智志、倉田博史、笹田薫、青木敏、森裕一、塚原英敦、中谷朋昭、瀬尾隆、鎌倉稔成（監事）、田中勝人（監事）

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

倉田委員長より、第31回小川研究奨励賞の受賞者について報告がなされた。倉田委員長より、日本統計学会欧文誌第47巻1号の進捗状況について報告がなされた。

2. 和文誌編集委員会

笹田委員長より、日本統計学会和文誌第46巻2号の進捗状況について報告がなされた。

3. 大会委員会

青木委員長より、資料に基づき、2017年度統計関連学会連合大会の準備状況について報告がなされた。

4. 企画・行事委員会

報告事項なし。

5. 庶務委員会

間野委員長より、会長選挙結果について報告がなされ、赤平昌文会員が被選会長となった。

間野委員長より、

- ・日本統計協会平成29年度懸賞論文
- ・慶応義塾大学 SFC 研究所第6回データビジネスコンテスト
- ・第63回全国統計教育研究大会（東京大会）

の後援依頼を承諾したことが報告された。

6. 広報委員会

森委員長より、学会ウェブページの英文化について報告がなされた。

7. 国際関係委員会

中谷委員より、資料に基づき、2017年6月23日、24日に国立台湾大学で開催される2017年大会における Special International Sessions と Wakimoto Memorial Session の講演者が決定したことの報告がなされた。

中谷委員より、資料に基づき、2017年度統計関連学会連合大会において、日本計算機統計学会との共催により、国際セッションの開催を申し込んだことの報告がなされた。

8. 渉外委員会

照井委員長の代理として、間野庶務委員長より、科研費（国際情報発信強化）が不採択であった報告がなされた。

<審議事項>

1. 欧文誌編集委員会

審議事項なし。

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし。

3. 大会委員会

審議事項なし。

4. 企画・行事委員会

審議事項なし。

5. 庶務委員会

審議事項なし。

6. 広報委員会

審議事項なし。

7. 国際関係委員会

審議事項なし。

8. 渉外委員会

審議事項なし。

9. その他

審議事項なし。

17. 社員総会報告

日時：2017年6月10日（土）13：30～15：00

場所：統計数理研究所 会議室1

出席者：岩崎学会長、代議員：国友直人、栗木哲、黒住英司、清水誠、高部勲、竹内光悦、谷崎久志、田畑耕治、田村義保、中野純司、西山慶彦、美添泰人（以上13名、委任状提出17名、議決権行使書5名）（オブザーバー：間野修平、村上秀俊、山下智志）

冒頭、岩崎会長より定足数確認後に開会宣言がなされ、オブザーバー3名の出席が承認された。岩崎会長より議事録署名人として田村義保、美添泰人両代議員が提

案され、承認された。

審議事項

<第1議案> 2016年度事業報告及び決算の承認に関する件

岩崎会長より、資料に基づき2016年度事業報告及び決算報告がなされた。決算報告について山下会計理事により補足説明がなされ、審議の結果、承認された。

<第2議案> 理事及び監事の選任に関する件

岩崎会長より、理事（岩崎学、中野純司、間野修平、山下智志、倉田博史、笹田薫、森裕一、青木敏、塚原

英敦、照井伸彦、瀬尾隆)及び現監事(国友直人、鎌倉稔成、田中勝人)が本社員総会の終結と同時に任期満了し、退任することとなり、その改選の必要があるため、以下のように後任の理事及び監事を選任する提案があり、審議の結果、承認された。(2017年6月10日付)

理事 赤平昌文、西郷浩、中野慎也、山下智志、青嶋誠、佐井至道、伊藤伸介、山本渉、大森裕浩、松田安昌、稲葉由之

監事 岩崎学、中野純司、中西寛子(2017年6月10日付)

<第3議案> 定款細則の変更

岩崎会長より、資料に基づき定款細則の変更について提案がなされ、間野庶務理事により補足説明がなされ、審議の結果、承認された。

<第4議案> 役員選任規程の変更

岩崎会長より、資料に基づき役員選任規程の変更について提案がなされ、審議の結果、承認された。

<第5議案> 会費規程の変更

岩崎会長より、資料に基づき会費規程の変更について提案がなされ、審議の結果、承認された。

<第6議案> 研究分科会規程の変更

岩崎会長より、資料に基づき研究分科会規程の変更について提案がなされ、審議の結果、承認された。

<第7議案> MOOC 委員会運用規則の制定

岩崎会長より、資料に基づきMOOC委員会運用規則の制定について説明がなされ、審議の結果、承認された。

<第8議案> スポーツ統計分科会の延長申請に関する件

岩崎会長より、資料に基づきスポーツ統計分科会の延長申請について説明がなされ、審議の結果、承認された。

<第9議案> 定款の変更

岩崎会長より、資料に基づき定款の変更について提案がなされ、間野庶務理事により補足説明がなされ、承認された。

報告事項(理事会報告)

1. 会員の入退会

中野理事長より、回覧資料に基づき、会員の入退会について報告があった。

2. 一般社団法人データサイエンティスト協会への入会について

中野理事長より、一般社団法人データサイエンティスト協会へ特別会員として入会したことについて報告があった。

3. その他

特になし。

報告事項(委員会報告)

1. 2017年度統計関連学会連合大会について

中野理事長より、2017年度統計関連学会連合大会において企画セッション(日本統計学会会長講演および各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演・JSCS-JSS International Session)が採択されたことについて報告があった。

2. 第11回日本統計学会春季集會について

中野理事長より、2017年3月5日に開催された第11回日本統計学会春季集會について報告があった。

3. 日本統計学会各賞受賞者の紹介について

岩崎会長より、資料に基づき、日本統計学会各賞受賞者について以下のように報告があった。

日本統計学会賞: 青嶋誠氏、清水邦夫氏、筑瀬靖子氏

日本統計学会統計活動賞: 田村義保氏

日本統計学会統計教育賞: 堀場規朗氏、埼玉県統計教育研究協議会

日本統計学会研究業績賞: 加藤堅悟氏、鈴木大慈氏、星野崇宏氏

日本統計学会出版賞: 西内啓氏

小川研究奨励賞: 田畑耕治氏

4. 科研費(国際情報発信強化)の結果について

中野理事長より、科研費(国際情報発信強化)へ応募した結果、不採択であったことの報告があった。

5. オンラインカード決済システムの運用開始について

中野理事長より、オンラインカード決済システムの運用開始に伴い、学会費をウェブから行えることとなったことの報告があった。

6. その他

特になし。

報告事項(その他)

1. 特別委員会からの報告

学会活動特別委員会より、国際化および他学会との連携を強化したことについて報告があった。

学会組織特別委員会より、準会員制度の導入および会費規程の変更について報告があった。

統計教育委員会より、2月に中等教育に対するパブリックコメントを出したことの報告があった。

2. 欧文誌ジャーナル改革について

Journal of the Japan Statistical Societyの発刊は2017年12月までとし、今後は学会連合が発行するJapanese Journal of Statistics and Data Scienceに欧文誌を移行することの報告があった。

3. その他

特になし。

2016年度事業報告

(2016.4.1～2017.3.31)

0. 学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として6年目を迎え、2年周期の学会事業を法人として3回終えることになる。運営の経験を蓄積したことを生かし、岩崎学会長、中野純司理事長を含む13名の理事と3名の監事、および各種委員会における委員の運営により、改革にも積極的に取り組んだ。第1回 Akaike Memorial Lecture の実施、欧文誌改革の準備、新しい会員種別である準会員の導入の準備、ウェブサイトの一新、統計検定事業の継続、MOOC 講座の体系化、各講座の内容の企画など、統計学の普及に大きく貢献した年度であった。

2017年2月21日現在の会員の数は1,546である(名誉会員16,正会員1,426,学生会員78,賛助会員19,団体会員7)。

I. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行
欧文誌2号[Vol.46 No.1(6月), No.2(12月)]を発行した。
内訳は原著論文9編, 全202ページであった。
科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発信強化」は不採択であった。
2. 和文誌の発行
和文誌1号[第46巻シリーズJ第1号(9月)]を発行した。
内訳は原著論文1編, 受賞者特別寄稿論文3編, その他を合わせ全112ページであった。
3. 会報の発行
No.167(4月), No.168(7月), No.169(10月), No.170(1月)を発行した。
4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版
昨年度に引き続き, JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った。
2017年3月現在8冊が出版済みであり, JSS-Springer 編集委員会では今後10冊以上の出版を予定している。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第84回大会の開催
2016年9月4日(日)～7日(水), 金沢大学において, 統計関連学会連合大会の一環として開催した。企画セッションとして, Akaike Memorial Lecture, 日本統計学

会各賞受賞者講演(各賞授賞式), JSCS-JSS International Session 3件 (Statistical modeling and analysis for complex data: Recent developments in multivariate analysis; Miscellaneous topics in modern statistics)を行った。

2. 春季集会の開催
2017年3月4日(土)に第11回春季集会を政策研究大学院大学において開催した。参加者は226名であった。
3. 研究分科会の活動
現在, 以下の分科会が活動中である。
「スポーツ統計分科会」(田村義保主査: 2009年6月発足, 2021年5月終了予定)
「統計教育分科会」(藤井良宜主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)
「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)
「金融の計量リスク管理分科会」(塚原英敦主査: 2009年9月発足, 2017年8月終了予定)
4. 大学間連携共同教育推進事業へのステークホルダーとしての参加
平成24年度採択の大学間連携共同教育推進事業(文部科学省)「データに基づく課題解決型人材育成」に資する統計教育質保証」にステークホルダーとして参加した。事業期間は2012年9月27日より2016年度末までであった。
5. 研究部会については, 2009年度以降応募がないため, 募集を停止した。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与
学会活動の活性化促進のため, 以下の賞を授与した。
第21回日本統計学会賞: 鎌倉 稔成, 栗木 哲, 田栗 正章
第12回日本統計学会統計活動賞: 鈴木 啓久
第12回日本統計学会統計教育賞: 石井 裕基, センサス@スクールプロジェクト(主査: 青山和裕)
第10回日本統計学会研究業績賞: 金森 敬文・藤澤 洋徳(共同受賞), 村上 秀俊
第9回日本統計学会出版賞: 柳川 堯・近代科学社(共同受賞)
第30回日本統計学会小川研究奨励賞: 廣瀬 善大
2. 各種委員会の活動
社員総会(2016年6月18日, 2017年3月4日)を開催した。
理事会(2016年5月14日, 7月16日, 12月17日, 2017年1月28日)を開催した。
役員・代議員協議会(2016年9月4日)を開催した。
その他の各種委員会を適宜, 開催した。

3. 広報活動の充実

- メールマガジンの使用やウェブサイトの充実により、各種情報発信を促進した。
- ウェブサイトを一新し、英文のページを充実させた。
- 入会者の拡大
準会員について検討し、来年度中に導入することとした。

IV. 啓蒙普及事業

- 「統計検定」の実施協力
2016年6月19日(日)と11月27日(日)に、日本統計学会が認定団体となり、公益財団法人統計情報開発センターおよび一般財団法人統計研究会の共催の下に、一般財団法人統計質保証推進協会が「統計検定」を実施した。また、2016年5月20日(金)～22日(日)には、RSS/JSS 試験を統計検定の一環として行った。
- M00Cによる統計学講座の提供
M00Cのプラットフォーム gacco において、「統計学 I：データ分析の基礎」および「統計学 II：推測統計の方法」を開講した。また、これらの講座のスタディノートを発行した。

V. その他

なし。

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の2016年4月1日から2017年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類（正味財産増減計算書、貸借対照表）について検討いたしました。

監査の結果

- 事業報告等の監査結果
一、事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 計算書類の監査結果
計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2017年4月25日

事業報告附属明細書

一般社団法人日本統計学会

監事

岡友直人

印

監事

田中啓人

印

監事

鎌倉稔成

印

附属明細書に記述すべき事項はない。

18. 理事会報告（2017年6月10日開催）

日時：2017年6月10日（土）15：00～15：40

場所：統計数理研究所会議室1

理事の総数13名 出席理事の数11名

監事の総数3名 出席監事の数3名

出席者

理事：赤平昌文会長，西郷浩理事長，中野慎也（庶務），村上秀俊（庶務），山下智志（会計），青嶋誠（会誌編集欧文），佐井至道（会誌編集和文），伊藤伸介（広報），山本渉（大会・企画・行事），松田安昌（渉外），稲葉由之（渉外）（以上11名，カッコ内は役割分担）

監事：岩崎学，中野純司，中西寛子

<第1議案> 会長および理事長の選出について

被選理事長西郷浩が選ばれて議長となり，会長岩崎学と理事長中野純司が任期満了により退任することとなり，会長選挙の結果，赤平昌文氏が被選会長として選ばれ，被選代議員会において西郷浩代議員が被選理事長として選ばれた旨を述べ，慎重に協議した結果，会長選挙規定および役員選任規程に則り，全員一致をもって，以下のとおり選定した。被選定者は，席上，その就任を承諾した。

会長 赤平 昌文

理事長 西郷 浩

以降の議長は，理事長が務めることとした。

<第2議案> 常設委員会における委員の交代について

西郷理事長より，資料に基づき，欧文誌編集委員会，和文誌編集委員会，大会委員会，企画・行事委員会，国際関係委員会，庶務委員会，広報委員会，渉外委員会，学会活動特別委員会，学会組織特別委員会における委員の交代について説明がなされ，審議の結果，一部修正の上，承認した。

・欧文誌編集委員会

小方浩明委員，加藤賢悟委員，倉田博史委員，栗木哲委員，鈴木大慈委員，塚原英敦委員，服部聡委員，増田弘毅委員，Chun-houh Chen 委員，Arnak S. Dalalyan 委員，Subhashis Ghoshal 委員，Richad D. Gill 委員より青嶋誠委員，岩崎学委員，金森敬文委員，清水泰隆委員，蛭川潤一委員，松井茂之委員，丸山祐造委員，矢田和善委員，Ching-Kang Ing 委員，James S. Marron 委員，Geoff McLachlan 委員，Haipeng Shen 委員に交代（2017年6月10日付）

・和文誌編集委員会

内田雅之委員，大西俊郎委員，下平英寿委員より佐藤整尚委員，二宮嘉行委員，松井秀俊委員に交代（2017年6月10日付）

・大会委員会

青木敏委員，姫野哲人委員，元山斉委員より山本渉委員に交代（2017年10月1日付）

・企画・行事委員会

青木敏委員，田中研太郎委員，二宮嘉行委員より玉置健一郎委員，永井義満委員，山本渉委員に交代（2017年6月10日付）

・国際関係委員会

塚原英敦委員より大森裕浩委員に交代（2017年6月10日付）

・庶務委員会

間野修平委員より中野慎也委員に交代（2017年6月10日付）

・広報委員会

久保田貴文委員，西埜晴久委員，森裕一委員より伊藤伸介委員，古岡弘樹委員，水野谷武志委員に交代（2017年6月10日付）

・渉外委員会

瀬尾隆委員，照井伸彦委員より松田安昌委員に交代（2017年6月10日付）

・学会活動特別委員会

国友直人委員，坂本亘委員，佐藤学委員，富田誠委員，矢島美寛委員，吉田朋広委員より青嶋誠委員，伊藤聡委員，狩野裕委員，竹内光悦委員，西井龍映委員，南美穂子委員に交代（2017年6月10日付）

・学会組織特別委員会

狩野裕委員，黒住英司委員，桑原廣美委員，竹内光悦委員，田畑耕治委員，藤越康祝委員，山本紘司委員より金藤浩司委員，国友直人委員，西郷浩委員，瀬尾隆委員，前園彦彦委員，山下智志委員，若木宏文委員に交代（2017年6月10日付）

<第3議案> 常設委員会における委員の交代について

西郷理事長より，資料に基づき，ISI 東京大会記念基金運営委員会における委員の交代について説明がなされ，承認した。

・ISI 東京大会記念基金運営委員会

岩崎学委員より赤平昌文委員に交代（2017年6月10日付）

<第4議案> 常設委員会における委員の再任について

西郷理事長より、資料に基づき、欧文誌編集委員会、和文誌編集委員会、庶務委員会、渉外委員会、学会活動特別委員会、学会組織特別委員会における委員の再任について説明がなされ、審議の結果、承認した。

・欧文誌編集委員会

浅井学委員、奥井亮委員、紙屋英彦委員、黒住英司委員、清水信夫委員、清智也委員、松浦峻委員、宮田敏委員、柳原宏和委員、Chia-Lin Chang 委員、Ja-Yong Koo 委員、Shiqing Ling 委員、Michael McAleer 委員、Marcelo C. Medeiros 委員、Hee-Seok Oh 委員、Wing-Keung Wong 委員を再任（2017年6月10日付）

・和文誌編集委員会

岩佐学委員、川口淳委員、川崎能典委員、駒木文保委員、佐井至道委員、笛田薫委員、福地純一郎委員、前園宜彦委員を再任（2017年6月10日付）

・庶務委員会

田畑耕治委員、山下智志委員を再任（2017年6月10

日付）

・渉外委員会

稲葉由之委員、鎌倉稔成委員、西郷浩委員、酒折文武委員を再任（2017年6月10日付）

・学会活動特別委員会

足立浩平委員、内田雅之委員、鎌倉稔成委員、川崎茂委員、川崎能典委員、栗木哲委員、栗原考次委員、清水誠委員、高部勲委員、竹村彰通委員、椿広計委員、中野純司委員、樋口知之委員、渡辺美智子委員を再任（2017年6月10日付）

・学会組織特別委員会

岩崎学委員、大屋幸輔委員、谷崎久志委員、田村義保委員、西山慶彦委員、福井武弘委員、美添泰人委員を再任（2017年6月10日付）

<第5議案> 会員の入退会

西郷理事長より、回覧資料に基づき入退会者が紹介され、審議の結果、承認し、社員総会に提出することとした。

19. 博士論文・修士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。なお、(6) 取得年月を省略しているものはすべて2017年3月です。(敬称略)

修士論文

● (1) 系行健 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) VAR モデルを用いた将来死亡率予測 (5) 白石博

● (1) 大石惇喜 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 最適配当境界のノンパラメトリック推定 (5) 白石博

● (1) 岡紘之 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 高次元における有効フロンティアの統計的推定 (5) 白石博

● (1) 樫山文音 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) Max-Stable Process による多変量極値データへのアプローチ (5) 南美穂子

● (1) 小池孝明 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) Estimation of Risk Contributions with MCMC (5) 南美穂子

● (1) 永田大貴 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 多変量スプライン平滑法を用いたストレートと空振りの定量的分析 (5) 南美穂子

● (1) 早瀬亮 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 非負値行列分解の数理とその適用 (5) 南美穂子

● (1) 八木彰子 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 保険会社における最適配当境界のパラメトリック推定 (5) 白石博

● (1) 山野 (大道寺) 香澄 (2) 博士 (理工学) (3) 成蹊大学 (4) 医薬品の有効性および安全性の統計的評価 (5) 岩崎学

● (1) 加藤雄一郎 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 臨床試験における累積データの不均一性を考慮して試験治療の有効性を評価するベイズ流解析法 (5) 寒水孝司

● (1) 玉井宗一郎 (2) 修士 (工学) (3) 東京理

科大学 (4) 標的部分集団解析を設定する臨床試験における多重比較法に関する研究 (5) 寒水孝司

博士論文

● (1) 仲真弓 (2) 博士 (理学) (3) 慶應義塾大

学 (4) Investigation of Goodness-of-fit in Ecological Data Modeling (5) 主査 南美穂子, 指導教員 柴田里程 (6) 2016年7月

● (1) Xiaolei LU (2) 博士 (統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) Simultaneous confidence bands and the volume-of-tube method (5) 栗木哲

20. 会員からの情報提供

会員から投稿された情報提供の内容を掲載します。

研究集会案内

2017年度科学研究費 基盤研究 (A) 15H01678

「大規模複雑データの理論と方法論の総合的研究」研究代表者: 青嶋 誠 (筑波大学) によるシンポジウムをご案内します。詳細は、下記サイトをご覧ください。

http://www.math.tsukuba.ac.jp/~aoshima-lab/jp/kiban_A.html

(1) 「統計学, 機械学習の数理とその応用」

開催責任者: 竹之内高志 (公立はこだて未来大学)

日時: 2017年9月21日 (木) ~ 9月22日 (金)

場所: 公立はこだて未来大学

(2) 「多様な分野における統計科学の総合的研究」

開催責任者: 蛭川潤一 (新潟大学)

日時: 2017年11月17日 (金) ~ 11月19日 (日)

場所: コープシティ花園4F ガレソンホール a

(3) 「大規模複雑データの理論と方法論, 及び, 関連分野への応用」

開催責任者: 青嶋 誠 (筑波大学), 矢田和善 (筑波大学), 日野英逸 (筑波大学)

日時: 2017年12月1日 (金) ~ 12月3日 (日)

場所: 筑波大学自然系学系D棟509 (筑波キャンパス内)

(4) 「生命・自然科学における複雑現象解明のための統計的アプローチ」

開催責任者: 松井秀俊 (滋賀大学)

日時: 2018年2月15日 (木) ~ 2月16日 (金)

場所: 滋賀大学彦根キャンパス 総合研究棟 (士魂商才館) 3階

21. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2017年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。後述の要領を参照の上、こちららもご活用下さい。また、2017年6月からクレジットカードでの学会費払込も可能となりました。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(http://www.jss.gr.jp/fee/).

会費規程の変更に伴うお知らせ

2017年6月10日の定時社員総会において、本学会の会費規程第5条第1項および第2項が下記のように改訂され、2017年度以後の会費に適用されることとなりました。2017年度は移行措置として、2017年度に減免申告をされた会員にも、2017年度会費から新規規程を適用いたします。旧規程の年会費をお支払い済みで差額が発生する会員には返金をさせていただきます。

一般社団法人日本統計学会 会費規程

第5条 正会員については、通算して会員歴35年以上の条件を満たしかつ常勤職に就いていない者には、申告により会費の減免を認める。減免された会費は2,000円とする。

2 正会員の期間が通算して50年以上の会員は、会費を1,000円とする。

学会費に関する問合せ先・連絡先

学会費自動払込ご希望の場合、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

減免を申告される場合、減免申告届に必要な事項を記入し、以下までメール、FAX または郵送でご提出ください。

(<http://www.jss.gr.jp/contact/discount/>)。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

木下 宗七 会員

入会承認

有吉雄哉, 井戸貴大, 入江薫, 恵志健良, 大久保篤志, 大田浩史, 岡田誠, 押目恭克, 貝野友祐, 河瀬彰宏, 菅由紀子, 草場穰, 國濱剛, 今田一希, 佐藤圭, 汐月雄一, 志賀保夫, 谷祐児, 地寄頌子, 陳景輝, 鶴田靖人, 中野あい, 長幡英明, 原田優子, 藤原康宏, 堀口正之, 増渕悠太, 水谷傑, 山田将之, 横山貴広 (敬称略)

退会承認

阿部穂日, 飯野光徳, 池端久貴, 石川大智, 石黒真木夫, 市橋勝, 伊藤薫, 大塚優, 大坪辰也, 大友篤, 大西洋一, 大平号声, 小笠原春彦, 緒方光, 小川一夫, 片岡佑作, 北英紀, 木村敏明, 酒井正子, 佐藤正広, 鳥久代, 清水雅彦, 住田友文, 竹井大輔, 寺山通博, 濱崎晃, 林英明, 檜垣宣貴, 久本久男, 舟喜光一, 牧厚志, 光藤昇, 森博美, 森崎初男, 矢原耕史, 吉岡耕一, LU XIAOLEI, VAN KOTEN CHIKAKO (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

石井幸太, 梅原嘉介, 王文傑, 何宗路, 佐伯親良, 杉原左右一, 高橋信, 田村肇, 千代岡那王, 中江健, 橋崎正剛, 松岡淨, 溝江将 (敬称略)

現在の会員数 (2017年6月30日)

名誉会員	16名
正会員	1,407名
学生会員	54名
総計	1,477名
賛助会員	19法人
団体会員	7団体

22. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

- 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4)

論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。

- 求人案内 (教員公募など)
- 研究集会案内
- 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。

- 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)
できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先:

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学経済学部
伊藤 伸介 宛

E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp

